

令和5年9月14日  
副幹事長 白濱 美鈴  
(須恵町立須恵第二小学校)

## 令和5年度 九州地区公立学校教頭会研究大会(沖縄大会)【報告】

- 1 研究主題 「未来を切り拓く力を育む 魅力ある学校づくり」
- 2 期 日 令和5年8月17日(木)・18日(金)
- 3 会 場 (全体会)那覇文化芸術劇場なは一と (分科会)那覇文化芸術劇場なは一と・教育福祉会館 他
- 4 内 容

### 【第1日目 8月17日(木)】

#### 分科会

- |       |               |   |             |
|-------|---------------|---|-------------|
| 1A・1B | 教育課程に関する課題    | 2 | 子供の発達に関する課題 |
| 3     | 教育環境整備に関する課題  | 4 | 組織・運営に関する課題 |
| 5A・5B | 教職員の専門性に関する課題 |   |             |

5A 提言者 福岡市立南当仁小学校 教頭 町田 隆久 先生  
研究主題 「ミドルリーダーと連携した指導力の向上」

### 【第2日目 8月18日(金)】

- (1) 開会行事
- (2) 記念講演

講師 玉城 絵美 氏

H2L, Inc., CEO

琉球大学工学部教授 東京大学工学研究科システム創成学専攻教授

演題 「メタバース空間上のBody Sharing」

高校生の頃、「できれば引きこもりたい」という欲望があった。体験を共有することが実現できないという課題を実現するためにはどうすればよいのかという思いから研究がスタートした。

「未来を予測する最良の方法は 未来を発明すること(アラン・ケイ)」1964年にアイザック・アシモフが書いた「2014年世界博覧会」の中の57%(工学分野においては82%)、1901(明治34)年に報知新聞に掲載された「二十世紀の豫言」の中の61%が現実のものとなっている。「明確になった欲望」は実現するという確信をもっている。

Body Sharingとは、個人の体験の拡張を実現するシステム。人は、体験を喜びとして生きており、その体験を分かち合う。これまで感覚情報(言語・聴覚・視覚・固有感覚)にテクノロジーが加わることで、体験共有は進化してきた。これからは、身体情報を共有することによって、身体、時間、空間的な制約にとられず、物理的なサービスの殆どはBody SharingとAIにて提供できるようになる。社会課題としては①農業従事者数の減少と高齢化 ②都市一極集中型の社会構造 ③障がい者の社会参画機会の制限と低賃金があげられる。

子供たちへSNS利用時の注意点やインターネット上で発信してはいけない情報について、事前注意を行うことが重要である。